

No.87 2007. 7 (株)よかネット

NETWORK 住み続けられる郊外住宅団地再生のために ~多摩ニュータウン「NPOフュージョン」と ューカリが丘ニュータウンの視察〜 2 失われる地域文化の保存・継承を考える ~飯塚市旧伊藤伝右衛門邸と中津市の街なみ整備の事例を通して〜7 今年で15周年を迎えました ~第15回よかネットパーティー報告〜 8 皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介 11 英彦山・修験道文化を田川の地域づくりに活かそう ~第1回研究会の報告〜 13 近況 糸島で田植えを体験しました 15



住み続けられる郊外住宅団地再生のために

~多摩ニュータウン「NPOフュージョン」とユーカリが丘ニュータウンの視察~

山田 龍雄

●中古住宅への住み替えニーズは潜在的にはありそうだ

全国の郊外団地開発の流れと同様に、福岡都市圏や北九州都市圏においても昭和30年代後半から40年代初頭の急激な都市部の人口増加を受け入れるため、郊外部に戸建て住宅地が開発された。また、「ベットタウン」というまちのイメージをつくりあげたのも、この時代であった。

昭和41~45年に旧住宅公団によって開発された宗像市のH団地では、全体の高齢化率は約20%であるものの、第1期に入居が始まった地区では、既に高齢化率が30%が超えていると推測される。このまま、家を引き継ぐ人がいなければ、空き地・空き家化が進行し、まちを維持していくことが困難な状況になることが既に見えており、既に起こってしまった未来でもある。

同じ時期に開発された郊外団地をもつ自治体は、このような団地を、如何にソフトランディングしていくのかといったことについて、共通の悩みも抱えていると考えられる。

昨年度、お手伝いした福岡県住生活基本計画の中でも「郊外団地再生」は重点プロジェクトのひとつに位置づけられている。私自身も、昨年度、福岡県の研究助成「高齢者の安心住み替えに関する調査」の公募に当選し、団地再生の基礎的な調査及び仕組みについて検討する機会を得た。

調査は周辺の賃貸住宅居住者の住み替えニーズや地元不動産会社や工務店などのヒアリングにより、住み替えの問題やサポートのシステムのあり方を検討したものである。

調査結果の概略を述べると、①若い賃貸住 宅層は「条件によっては中古を借りたい」が 約4割程度ある、②賃貸料金は5割程度が6 ~8万円と常識的な家賃を希望している、③ 地元の民間企業(不動産・工務店等)は住み 替えに対して何からの支援をしてもよいと考えている。このように中古住宅への潜在的な住み替えニーズがあるなかで、郊外団地の空き家や中古住宅を活用し、持続可能なまちづくりとしていくためには、何が決め手になるのか、また、行政と地元とがどのような協働体制を築いていくことが有効なのかなどを考えさせられた。

3月に研究報告書を提出して2カ月経過したときに、多摩ニュータウン内で住宅の相談業務や住み替えの支援などを行っているNPOフュージョンの取材に行く機会を得た。さらに"成長管理のまちづくり"をコンセプトとしているユーカリが丘ニュータウンも視察し、団地再生に係わっているキーマンに取材させていただいたので、そのポイントを報告したい。

【多摩ニュータウン NPOフュージョン】

NPOフュージョン長池、NPOフュージョンについては、設立の経緯や活動内容についてはいろいろな雑誌に取り上げられているので、割愛させていただく。ここでは、理事長の富永さんの話の中で「暮らしと住まい相談事業」、「相談窓口のあり方」、「住み替え支援」などに的を絞って報告したい。

富永さんは、午前11時から12時半までとい う予定の時間を約30分オーバーして、熱心に



出典:市民ベンチャ-NPOの底力 富永一夫・中庭光彦

話していただいた。

●国土交通省の支援による相談事業

2003年にNPOフュージョンを設立し、そ の年に「都市再生モデル調査」として、多摩 ニュータウンの人口や住宅状況を調査し、そ の調査結果を「計画開発住宅地(ニュータウ ン) の今後のあり方検討委員会」に提起した。 多摩ニュータウンといっても八王子市、多摩 市、町田市、稲城市の4つの市にまたがって おり、多摩ニュータウンの全体をまとめたデ ータがなかったとのこと。また、多摩ニュー タウンはすべてオールドタウンというような イメージがあるが、今でも新規の開発が行わ れている団地であり、最初に開発された団地 では高齢化が進行してきたことから住み替え や暮らしをサポートしていく仕組みが必要と 考えられた。そこで、2006年4月に国土交通 省とハウジングコミュニティ財団の支援で 「暮らしと住まい相談センター」を開設した。

●暮らしつづけられるまちづくりが必要

富永さんは単なる住宅相談ではなく、"暮らし"というキーワードが重要であることを力説されていた。実際、相談件数は、これまで100人程度であるが、その7割が単なる売買や賃貸の話ではなく、"暮らし続けるための不安"であり、残り3割が住み替えの相談であった。

「誰でも地域から離れたくないもので、何らかの事情で移り住まざるを得ないのであって、住み替えを前提として考えるのではなく、住み慣れた地域で住み続けるようにすることが大切である」という話は、住み替えシステムをメインに考えていた私にとっては原点を見つめ直すことができた言葉であった。

●相談窓口には専門家はいらない

ここのタイトルの話は、考えてみると至極 当然な話である。「相談窓口に専門家を置く と、どうしても専門家は、自分の専門の話だ けに執着し、相談者の意見を聞かないで、自 分の得意分野に引き込んでしまう。したがっ て、相談窓口にはちゃんと話を聞いてあげる 奥さんみたいな人に対応してもらった方がよ い。そういう意味で専門知識はなくても聞き 上手な奥さん方が、住み続ける不安を聞き、 話の中でどうしでも専門家の意見を聞く必要が出てくれば、専門家につなぐ体制をつくっておけばよい」そうだ。

多摩ニュータウンの「暮らしと住まい相談センター」では4人の女性スタッフを配置し、交代制で相談に応じている。バックには相談できる多くの専門家がおり、この応援者を多く抱えていないと、このような「暮らしと住まい相談」みたいな相談業務はできないといえよう。

相談の前裁きをして、具体的に「住み替えたいので家の査定をしてほしい」というような話になると、富永さんが信頼している不動産会社に紹介するといったスタイルで行われている。また、リフォーム相談では、行政ではできない業者の推薦も、リフォームの内容をみて富永さんが信頼している工務店を紹介している。行政では特定の業者を指名できない、どうしてもアベレージ主義となってきめ細やかなサービスができないことをNPOで補っている。

●「暮らしと住まい相談センター」を持続するための仕組みを検討中

ここの相談業務は、現在のところ国(移住 ・住み替え支援機構など)の金銭的な支援が あるから運営ができている。富永さんは、相 談センターが持続していくための話として 「今は、国の支援がなくなったら、店じまい するしかない。少しでもこの業務を続けてい くためには、店を構えないで、出張相談でも よい。しかし、人件費だけは必要なので、こ のセンターに係わってくれる民間企業、個人 からのお布施を増やしていかないといけない。 特に多摩ニュータウンの沿線の価値を高める ためには、京王電鉄さんも沿線住宅地の活性 化、魅力を持続していかないといけない。そ のためにも空き家ストックを有効に活用して いかないといけない。そこで、京王電鉄さん に『移住・住み替え支援機構』の賛助会員と して参画して頂き、支援機構から"暮らしと すまい相談センター"に支援していただいて いる」と述べられた。補助がなくなった場合 に備え、相談センターが継続できるような民 間企業との連携の仕組みも考えられている。



京王電鉄と連携した住み替え支援の仕組み (パンフレットより)

●組織には"土の人"だけでなく"風の人" が必要

話の中で、行政と住民との繋ぎ役としての NPOの役割、あり方など、いろいろな話を していただいたが、組織論として参考になっ た話を、ひとつ報告したい。

現在、富永さんは多摩NPOセンターの理事でもある。多摩NPOセンターは、多摩市及び周辺地域の市民活動を活発にするために、場や機材の提供、人材の育成、活動に対する助言などを行っている組織である。これまでの多摩NPOセンターの運営は、各団体の協議会方式で行っていたのであるが、意志決定が遅く、運営もスムーズに行われていなかった。そこで、多摩市が、運営する団体を公募したところ、NPOフュージョンが応募し、会員4人(男性2人、女性2人)のスタッフに運営が任されたのである。

「NPOスタッフが少人数で責任をもって 意志決定するので、とにかく何をするにも意 志決定が早い。また、ここは多摩市の委託に よる運営であるが、多摩市出身の人だけでは 多摩市のことしか考えられなくなるので、こ のような組織を作るときには、多摩市以外の 人をいれないといけない。多摩市以外の人が "風"となって組織を淀みのないものにして くれる。したがって、今は多摩市内の人は1 人で、残り3人は他の地域の人である」とい うような含蓄ある話も聞くことができた。

約2時間程度の取材であったが、富永さんが普通の暮らしの目線から問題点を掘りおこし、自分たちの住む地域を住みやすく、住み続けられる地域としていくことを自ら率先して、戦略的に行っていることが充分納得できた取材であった。

【ユーカリが丘ニュータウンの取り組み】

当日は、事前に取材申込みをしていたとはいえ、私一人の取材のために丁寧な対応をしていただいたいことに、まず感心させられた。1時間半程度、事務所で開発の経緯やコンセプトなどの話を伺ったあと、現地まで丁寧に案内していただき、午前10時から午後1時までの3時間も相手して頂いた。ここでもすべて報告できないので、特に感銘した箇所に絞って報告したい。

●開発主体が核となり、地元と協働で持続するまちづくりを目指す

「ユーカリが丘ニュータウン(以下ユーカリが丘)」は、千葉県佐倉市にあり、昭和46年に開発に着手し、昭和54年から分譲開始した団地であり、開発着手から既に35年、第1期分譲から28年を経過している団地である。

この団地の開発面積は約245ha、計画人口約30,000人、2007年3月時点での人口は15,032人、5,526世帯、今後、10年間にの約2,000世帯の計画が見込まれており、まだ、成長を続けている団地でもある。

団地の最大の特徴は、開発したデベロッパーである山万㈱が、当初から団地の成長管理をしていくことをコンセプトとし、今でも持続するまちづくりを、居住者のニーズをくみ取りながら、団地内で新たなビジネスの商品開発を行い、実践していることである。また、昭和57年には団地内を回遊するミニ新交通システムを一部供用開始し、翌58年に全線開通している。当時、団地内に新交通システムを導入したということでは先進的な団地であり、全国から注目された開発であった。

現地に行って感じたことであるが、新交通システムもさることながら駅前には高層マンション群が建ち、その低層部分には文化施設や商業施設が入店し、さらに隣接する地区には大型のショッピングセンター(シネマコンプレックス併設)、クリニックセンターなどが立地し、センター機能が充実していることが、ユーカリが丘の魅力につながっているようだ。

ユーカリが丘が実践している持続可能なま ちづくりの取り組みの一旦を述べたい。



上:ユーカリが丘ニュータウンの全体図下:位置図(パンフレットより)

●買取り方式の住み替え支援

第1期分譲から既に28年を経過したことから、団地内の一画は高齢化がかなり進んできており、分譲マンションや有料老人ホームなどへの住み替え需要がでてきた。これが住み替え事業の発端であった。ここの住み替えシステムは、単に戸建て住宅から分譲マンションへの住み替え支援をイメージしているのではなく、次頁に示すような「ユーカリが丘ハッピーサークルシステム(以下「Y・H・C

・S」という)の一環として実践している。 このY・H・C・Sは、高齢期を迎えるに あたって身体状況、住宅状況に応じて在宅 ケアから老人保健施設や老人養護施設など の施設介護までの対応システムであり、健 康面においては順天堂大学との連携によっ て居住者のサポートを行っている。

ユーカリが丘の住み替えは、「住み替え たい」と考えている居住者の家を山万㈱が 査定し、買い取り、若い世帯向けにリフォ ームして、新築物件より2~3割程度安く して販売している。2年前からこのシステ ムを事業化し、現在までにマンションへの 住み替えも入れて15~16件の取り引きがあ った。実際にリフォームされた住宅を見せ てもらったが、全く新築と変わらないぐら いお金をかけてリフォームされている。担 当者の方に聞くと、リフォームは元の住宅 の痛み具合や購買のターゲットによって①5 00~1,000万円かけてリフォームするもの、 ②500万円以下でリフォームするもの、③ほ とんど扱わないものの3段階で行っている そうだ。

●まちの価値を下げないための買いとり

ある団地区画の中で他の不動産会社が早く 現金に換えたいなどの居住者の都合により、 通常の価格より安く売却してしまい、その不 動産会社が相場よりも安く販売するケースが あるらしい。

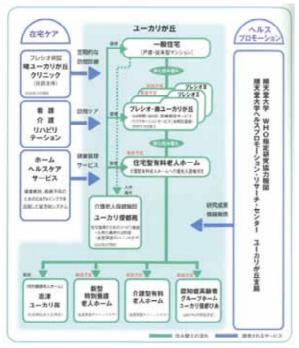
そのため、安売りをして、まちの価値が下がらないように山万㈱自らが、販売価格より相場に近い価格で買い取ることもある。このことは周辺居住者への不安を和らげるとともに、ユーカリが丘全体のまちの価値を維持していくことにつながっている。

●団地の一角に福祉のまちをつくる

ユーカリが丘の北側の一画に、障がい者や 高齢者の施設を導入した福祉のまちがつくら れている。既に「知的障がい者入所更生施 設」「知的障がい者通所更生施設」「障がい 児(者)地域生活支援センター」「老人保健 施設」「特別養護老人ホーム」「有料老人ホ ーム」がオープンし、展開されている。また、 今年の8月には認知症高齢者グループホーム



大人200円で団地内を回遊できる新交通システム



図Y・H・C・Sの概念(パンフレットより)

を開設する予定となっており、福祉のゾーンとしての機能を果たしているようである。老人保健施設と認知症高齢者グループホームは、山万㈱が主体となって社会福祉法人を立ち上げ、開設運営している施設である。

これらの施設には、団地居住者の方々はも ちろんのこと佐倉市内及び周辺地域からも入 居されている。

子育て支援のための取り組み

高齢者や障がい者などの福祉のまちづくりと併行して、現在、山万㈱が力を入れているのが「子育て支援」である。これも若年世帯のニーズに応える、新たな団地の魅力づくりのための試みである。団地内には既に、働く女性が安心して仕事に出かけられ、出張や残

業にも対応できる施設としてユーカリが丘チャイルドハウス「ハローキッズ」という認可保育園を駅前に開設している。保育時間は7:00~19:00まで子どもを預けられ、近々増床の予定となっている。また、7月には駅前で「総合子育支援センター(仮称:キッズパーク)」を開設予定である。この施設は、全天候型の子どもの遊びの場をメインとしながら、子育て中のお母さんやお父さんが子育てについて一緒に学べる場として位置づけられている。

会社の季刊誌を全戸に手渡し、住民との信 頼関係を築きつづけている

現地を案内していただいているときに、担当者が何気なく話されたことであるが、開設当初から会社の季刊誌を、3カ月ごとにユーカリが丘に配属されている職員全員で手渡しをしていることには驚かされた。担当者の方は「ちゃんとチャイムを鳴らして、手渡して、ちゃんとチャイムを鳴らして、手渡したことを基本としています。お留守の時にはと方ないので置いてくることあります。顔を付き合わせることで安心して頂き、ちっとしたことを相談されることが大切なのです。」と言われていた。

このような山万㈱の地道な活動が、ユーカリが丘団地居住者の信頼の礎になっていると同時に、新たなビジネスチャンスのきっかけにもなっているように思った。

また、山万㈱の正社員約100人のうち、8割はユーカリが丘団地内の事業所で働いており、2割は東京の方に勤務している。さらに、正社員のうち約7割がユーカリが丘団地に居住しているといった点でも、山万㈱は地域密着型の会社であるといえよう。

毎年概ね200戸づつしか供給しないという長期的な開発思想

ユーカリが丘では、現在、残っている宅地と開発中の宅地で約2,000戸程度の供給を予定しているが、会社の方針としていろんな世代の住めるまちとなるように、需要があっても毎年概ね200戸づつしか供給しないと決めている。これも山万㈱の長期的なまちづくりを見据えた取り組みである。

昭和30年代後半から40年代初頭にかけて開

発された住宅団地では、ほとんどの団地が一挙に高齢化している。当初から、持続可能なまちづくり、成長管理の思想をもって開発してきた団地はどの程度あったのかと思う。それを思うとユーカリが丘の取り組みは先端的であるというより、当然、当初から考えておかなければならないことを実践しているのである。是非、5~10年後に、再度ユーカリが丘を訪問し、まちの変化をみてみたいと思っている。 (やまだ たつお)

失われる地域文化の 保存・継承を考える

~ 飯塚市旧伊藤伝右衛門邸と 中津市の街なみ整備の事例を通して~ 原 啓介

地域特有の文化・芸能や建造物等は、取り壊しや、所有者・管理者の高齢化、地方の過疎化、生活様式の変化など、様々な要因によって失われている。しかし、各地に残る地域資源は、歴史的・文化的に価値があって、登場では、歴史的価値が低く、壊されているものなど、その境遇は様々である。地域うたのなど、その両者には、どのような違いがなり、保存・活用していくためにはどのようない、保存・活用していくためにはどのようない、保存・活用していくためにはどのようない。

そこで、まず建築物について、どのような 建物が修復・保存・活用されているのか、福 岡県飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸、大分県中津 市の街なみづくりについて、担当者の方にヒ アリングを行った。

福岡県飯塚市「旧伊藤伝右衛門邸」の保存 ・活用

伊藤伝右衛門は、江戸時代末期に生まれ、 大正・昭和にかけて、一代で巨万の富を築い た筑豊の炭坑王であり、大正天皇のいとこで ある柳原白蓮と結婚し、飯塚市の大邸宅で暮 らした。この建物が旧伊藤伝右衛門邸である。 その後、白蓮は社会運動家の宮崎龍介と駆け 落ちしたのだが、この事件は「白蓮事件」と 呼ばれ、当時大変な大ニュースになったそう だ。

2003年、嘉穂劇場が深刻な水害に遭ったが、様々な補助金、支援により、水害後1年で運営再開した。この時、市民のまちづくりへの気運が盛り上がり、市民に「やればできる」という自信が生まれた。ちょうどその頃、旧伊藤伝右衛門邸と、ある料亭の二つの建物がなくなるという話が出て、これを保存しようという住民活動が盛り上がった。

旧伊藤伝右衛門邸は、建物の意匠も優れていた。また、柳原白蓮にまつわるルートが九州観光推進機構が認定する広域観光ルートの第一号に認定されるなど、柳原白蓮への注目度が高まってきていた。

旧伊藤邸が保存・活用された大きな要素として、建物の価値、物語の付加価値の両方があったことが挙げられる。建物を残し、活用していくためには、少し大げさな部分があっても、物語をつくり、宣伝し、盛り上げていくことが必要。建物の価値というよりも、その付加価値・物語の価値の方が、土産話になり、お客を呼ぶ魅力になる。

当初の予定では、年間の来館者は1万5千人ぐらいと思っていたが、開館から一ヶ月で5万人が訪れ、周辺には土産物屋もできている。

最近の飯塚観光のメインコースは、旧伊藤邸と、嘉穂劇場となっているそうだ。炭坑の大金持ちの生活の場と、炭坑夫達(大衆)の遊び場という、ある意味対極的な面が見れて面白いのかもしれない。今後は重要文化財の指定を目指すということである。

この事業は「旧伊藤邸を目玉にしたまちづくり」として、周辺道路整備、サイン整備などを含めた都市再生整備計画によって、まちづくり交付金の補助によって進められている。

一方、料亭は増改築が繰り返されており、 建物の歴史的価値が失われていたことに加え、 所有者も建物を残す意向がなかった。市民感 情としては、残したいということで、保存活 動への盛り上がりはあったが、結局建物は取 り壊され、マンションが建てられた。

旧伊藤伝右衛門邸を訪れたのは、雨の降る

平日の午前中であったが、その日は貸し切り バスが14台来る予定で、中高年のグループも 数多く訪れており、「白蓮さん、白蓮さん」 といって、楽しそうに見ている姿が見受けら れた。

大分県中津市「城下町の風情をもったまちづくり」

中津市は、福沢諭吉の生誕地として知られ、 中心市街地には、中津城の城下町の町並みや、 古い寺社が多く残る寺町がある。

中津駅前の島田本町通り、蛭子町通りでは、 区画整理事業が行われており、建て替えの際 に外壁や屋根を「城下町の風情をもった街な みに調和」するように、「まちづくり協定」 が結ばれている。建築物の新築及び増築した 場合、街なみ環境整備事業によって、100万円 を上限とした補助が行われている。

しかし、建築協定であるため、強制力はなく、「和の風情を持った外観にして下さい」 というお願いによって、地元の約8割がこれ に合意をしている。

これとは別に、市は、まちづくり発見研究会という組織を立ち上げ、歴史的建造物をリストアップし、その構造や意匠などをホームページ等で情報発信する活動に取り組んでいる。リストアップした建物を残したいとはれている場合以外にはなどのエリア指定が行われたは、保存・修復している場合以外には、保存・修復している時間が開いたとは難しい。寺町の一津市にある寺の外壁が崩れたケースでも、中津がもたのが、文化財でも、整備エリアでも、行政としての支援ができなかった。

事例を通じ、地域文化保存のための解決策 を考えていく

地域に古くからある建物や、特有の景観など、大事にしたい、残したいと思っているが、それが取り壊されてしまい、残念な思いをしたことがある人は多いと思う。署名活動等で地域の思いを結集できた場合や、地域として守ろうというエリアに指定されている場合等は、地域の人々の理解により、行政からの支援・補助が可能となるケースが多い。しかし、

それらに当てはまらないものはどう保存していくのか、ということは、難しい問題である。どういう解決策があるのか、地域がどう対処しているのか、事例を通じて考えていきたい。 (はら けいすけ)

今年で15周年を迎えました。

~ 第15回よかネットパーティー報告~

よかネットパーティは今年で15周年を迎えました。読者の方の中には、ご存知の方も多いかと思いますが、よかネットパーティは、参加者がお勧めの一品(料理やお酒など)を持ている。のは、です。のは、よからです。パーティのウリは、よからです。パーティのウリは、よからです。パーティのウリは、よからです。パーティのウリは、よからです。パーティのウリは、よからです。からです。つからに全国各地からなどがあました。今年は、地で今年もテーブルがいっぱいになりました。

今回は、新たに知り合いになった方をたくさん呼ぼうということで、所員一丸となって声かけをしました。その甲斐あって、昨年よりも新たな顔ぶれも増え、最終的には100名近い参加がありました。

今年も、会場は警固神社でした。昨年までの古びた趣のある木造建ではなく、今年の、春に建替えられたばかりの真新しい畳の間で行いました。会場が新しくなったので、パーティーのやり方をいくつか変えてみました。 具体的には、

持参したお勧め品は各自それぞれ盛付けて 頂くスタイルにしたこと

中央のテーブルに全ての料理を並べて、参加者が持参した自慢の一品が一通り見渡せるようにバイキングスタイルにしたこと 特産品コーナーを設けて、参加者の意見が

直接聞けるようなコーナーを設けたことなどです。今年の特産品のコーナーには、大口市、平戸市、松浦市、佐賀市、八女市から特産の試作品などが並びました。



大口市、焼酎豚を勧めて感想を聞かれている所



平戸市・松浦市、試食の準備中

焼酎に関わる商品をPR 大口市

大口市からは、伊佐地区産業活性化協議会の事務局の中村さんと武田さんが参加されました。昨年の暮れに行われた、第16回電気のふるさとじまん市で「じまん市大賞」を受賞した「伊佐の焼酎豚」と、地域限定の芋焼酎「伊佐米」と「伊佐美」のPRを行われました。全国各地でPR活動をされてきたこともあって、いろんな方と情報交換をされていたのがとても印象的でした。

海の特産品や加工品をPR 平戸市・松浦市平戸市と松浦市からは、平戸松浦地区観光人材育成協議会の事務局の吉永さんと柳瀬さんが参加されました。平戸からは特産品の「あご」、松浦からは「肉みそ納豆、先生おかわり」を持参し、PRをされました。

「肉みそ納豆、先生おかわり」というのは、 地元の学校給食で大人気だった肉みそ納豆を、 ふれあい加工所のみなさんが商品化したもの です。昨年度からお手伝いしている特産品開 発プロジェクトで生まれました。他の地域で 特産品・食の開発プロジェクトに係わってい る人や多くの参加者と情報交換の場ができて 勉強になったとおっしゃっていただき、呼び



佐賀市、肥前あさくさ海苔の説明中



八女市、米ん粉ゼリーの紹介をされています

かけた側としても嬉しく思いました。

今回、初めて参加する方が3割と例年になく多かったのですが、思った以上に積極的な 交流が行われたのではないかと感じました。

初めて参加した方には、いろんな方と知り合いになれてよかったといった感想を頂きました。さらに、パーティで知り合った方と一緒に仕事をやることになりましたと言われた方もおられました。

次回はより一層「ひともうけ」を前面にうちだした楽しいパーティができるように、力を入れていきたいと思います。

(雪丸 久徳)

海苔商品を P R 佐賀市

佐賀市からは、海苔を使った商品開発に取り組んでおられる「佐賀市漁村女性の会」の古川さん、合併によって生まれ変わった佐賀市観光協会、佐賀市の観光・文化課の職員の方々など、5名の方々が佐賀の海苔を使った商品を持参、PRをされました。

今回持ってこられたのは、肥前あさくさ海苔の刺身と、焼きのリアイス、海苔の佃煮、海苔の佃煮に紀州梅が入った「うまかのり梅」です。

以前も紹介しましたが、焼きのリアイスや、うまかのり梅はコンクールで農林水産大臣賞を受賞した一品です。肥前あさくさ海苔の刺身は、海苔を乾燥させる前の、海苔本来の色、形、風味、食感を味わうことができます。しかも、アサクサ海苔の品質が良く、生産高で日本一を誇る佐賀の海苔だからこその味わいです。

私はこの肥前あさくさ海苔の刺身をいただいたのは、初めてでした。食感は刺身のツマに使われるトサカノリ(赤い海藻)に似ていますが、より茎が細く、薄く、ポン酢をかけて食べると、さっぱりしてとても美味しいものです。

パーティー参加者の方も、海苔の刺身や焼きのリアイスなど、普段あまり目にすることのない商品を味わうことができ、好評だったようです。古川さんには「佐賀の海苔をPRするいい機会になった」とおっしゃっていただき双方にとって良い企画だったのではないかと思います。 (原 啓介)

地元食材のこだわりゼリーを PR 八女市

八女市からは、10年前から、市内の特産品直売所べんがら村で手づくりの惣菜やまんじゅうを販売されているグループ「リースマイル」の江崎さんと鐘ヶ江さんが絣のエプロンを着て参加されました。現在は、アレルギーを持つ子どもさんの悩みを解決しようと、小麦粉や卵を使わない地元の素材にこだわったおやつの研究を始められたそうです。

今回持参されたのは、八女のお米"ゆめつくし"とマンナンベース(コンニャクの繊維)で作られた「八女茶米ん粉ゼリー」「イチゴ(あまおう)米ん粉ゼリー」です。学校給食への活用や直売所での販売を目標に商品化を進めておられます。

ゼリーは、白い部分と各味の色の2層になっていて、涼しげでとてもかわいらしいゼリーです。当日は凍らせたものを持参されており、私は解凍したものを食べたのですが、食感はもっちりプルンとして、八女茶やあまおうのほどよい香りと甘さが楽しめながらも後味さっぱりでとても美味しかったです。半解凍で食べる食感もお勧めとのことでした。

持ち帰り、アレルギーで小麦粉がダメな妹にも食べてもらったところ「美味しい!どこで売っていると?」と感激していました。妹は小麦粉を使わないお菓子として和菓子などをよく探してきますが、このようにほどよいボリューム感と、清涼感のあるもので小豆以外の味も楽しめるものは少なくとても喜んでいました。

パッケージの形態や価格設定など課題があるのですと言われていましたが、今後商品化されるのが楽しみです。 (愛甲 美帆)

ネットワークの新陳代謝

よかネットパーティーは今年で15回を迎えたが、自身は入社して7回目の体験となる。ようやく半数近く参加したことになるのだが、私なんかよりも出席率の高いベテラン参加者がいる一方で、毎年知らない顔ぶれを多数見かける。所員の誰かのつながりで来ているに違いないのだが、毎回参加者の半分くらいは初めて会う人ではなかろうかと思う。

今年は積極的に新しい人たちに参加を呼びかけようと意識したこともあって、フレッシュな顔ぶれが多かったように思う。同窓会などの固定化したネットワークの安心感もいいが、新しい出会いも楽しい。ただ自分から積極的に声をかけることができない性格をなんとかできないかなあ、とパーティーが終わるたびにいつも反省している。(本田 正明)

パーティーの事は、4月中旬頃から話し合いますが、毎年「受付から盛りつけまでの流れをどうする?」という点が問題となります。

受付から盛りつけまでの流れ

「受付 名札・持参品のコメントを書く 盛りつけ」という流れが、どうすればスムーズにできるのか、特に今年から会場が建て替えられ台所が狭くなり、台所までの動線が変わった事から盛りつけをどうするか考え、持参品はお皿に移すだけの状態で持ってきてもらうようにしました。

今年は、参加者が来られる時間が集中しなかったので、受付が混むこともなく、名札・持参品のコメントを書くという作業も、浸透してきたせいか、右往左往する方もほとんどおらず、スムーズにできたと思います。ピー

クだった時間も、本来は名札を書くテーブルに一人配置しておく予定だったのですが、常連の参加者の方が説明してくださっていて助かりました。持参品の盛りつけも、皆さんの協力のおかげで、かなり手間が省けスムーズに出していく事ができました。

今年は、ほとんどがスムーズにいき余裕があったので、「私たちも慣れてきたのかも」と思いましたが、去年と一番変わったのは「持参品をお皿に移すだけの状態で持ってきてもらう」ことだったので、結局は皆さんのおかげかなと思いました。

(佐伯 明日香)

皆様から寄せられた「よかネット」への ご意見、近況などの紹介(敬称略)

アメリカの連続テレビドラマにハマってい ます。少しでもみたことのあるシリーズ名 をあげると、24、デスパレードな妻たち、 LOST、プリズン・ブレイク、OC、ポ イント・プレザントの悪夢、デッドゾーン、 4400、ダーマ&グレッグ、エイリアス、ト ゥルー・コーリング、スーパーナチュラル、 ER、ボーンズ、ホワイトハウス、アリー マイラブ、・・・。いくつかご存知?クー ルな日本文化・ジャパニメーションとか、 韓流とか、香港映画(ディパーテッドのオ リジナル他)等文化・ソフト面でもアジア が台頭してきたとも言われますが、他文化 とりこみ力も含め、アメリカのこの面の圧 倒的強さを感じます。(生物同様、多様性 こそ重要とインプットされてはいるのです が)。

(豊島区 佐藤 正憲)

いつも楽しみにしています。子どもが 2 人とも小学校に。楽になるかと思いきや、保育園時代はパラダイスでした。職住近隣を生かして何とかのりきって・・・いけるのかなぁ・・・。

(千代田区 伊藤 明子) 新潟県中越地方の農村の震災復興に関わって2年がたちました。ハード中心の復旧からソフト中心の復興そして再生へと行政も NPOボランティアも転換点に来ている事は分かってはいますが。では何をすればよいかは暗中模索が実態でしょう。

(江戸川区 宮田 裕介) いつも楽しく読ませて頂いています。地域 密着型のまちづくり情報を今後とも期待し ています。

(世田谷区 渡邉 浩司)

日本企業の経営 = やめない経営

" = 逆張りの経営*

" = ストックの経営

三原則!!

*人の行く裏に道あり花の山 ・・・です!! (千代田区 鍋山 徹)

地方都市の衰退している中心市街都市を活性化し、アジア共同体の方々から賞でられる都市文化を創る。そして、持続的に美しくなれるまちづくりの「虎の巻」を編集したいと思っています。例えば、世界的に誇れる「風味づくり」「3次元のマスタープランづくり」に努力しているまちを紹介して下さる方を募集中です。よろしく!

(小金井市 渡部 與四郎) 都市再生機構の団地は、大都市部を中心に、 77万戸ありますが、高度成長期に入居した 方々も定年退職を迎える時期になります。 田園住居を考えている人も沢山いるのでは ないかと思います。

(横浜市 内田 純夫)

- ・おばあさん仮説には、ウソ?!。おじい さん仮説は?
- ・ 善光寺蔵楽座型再開発は福井県の武生に もあります。
- ・小布施はもう入込は頭打ちのほうがよいのでは?
- ・体験観光仕掛けを中越震災の地・長岡市 法末集落で、(NPO)日本都市計画家 協会が、定住促進支援策として試行中で す。3~4cmの豪雪の山村でなにができ るか、一軒の家を借りてやりつつあり、 これからが楽しみです。なにかヒントを 教えて下さい。
- ・季刊になって更に充実を期待します。感謝。 (横浜市 伊達 美徳)

地域スーパー「平和堂」、市行政と協働して「鳩の街プロジェクト」が動き出しています。少子高齢化での"まちづくり"の市民活動、夢は大きいが、月2の運営はなかなか骨がおれます。「よかネット」の情報参考になります。

(湖南市 溝口 弘)

「セノオの古書店」を創めて6年、EasySeek から楽天フリマとサイトが変わりましたが、今回楽天の固定価格サイトの廃止に伴い「スーパー源氏」に参加しました。

昨年末から、古本の楽天市場の固定価格 サイトの廃止に伴い、5,000冊をエクセル で編集して「スーパー源氏」に移し変える のに、3カ月かかり疲労困憊です。http:// www.eonet.ne.jp/~senoh/の古書目録に 「妙好人」を設けています。その中の七里 恒(恆)順和上は、明治時代浄土真宗本願 寺派総長をされました。「明治三十三年に 亡くなられた博多・萬行寺の中興の祖・名 僧七里恒順師は、念仏を申すことを人力車 を引くことに譬えています。人力車を引き 始める時、引く人には大変力がかかります が、いったん動いてしまえば、今度は方向 を定めてやるだけでスイスイと前へ進んで くれます。同様に念仏を称える時、始めは なかなか声に出ませんが、称えられるよう になると後はいつでもどこでも私の口をつ いて出てくれると言うのです。」と聞法さ れています。

(東大阪市 妹尾 精一) 大阪の歴史的近代的な「大阪まちなみ百 景」のガイドブック作成の作業を2カ月か けてやり4月末に発行することになりまし た。これは大阪府が大阪の美しいまちなみ を再発見していただき、景観に対する愛着 を深めていただくとともに、国内外からの 訪問者に大阪の魅力を発信するという主旨 から作成されたもので、撮影、説明文、地 図の作業をしました。販売するとのことで す。

(川西市 髙橋 久栄)

勤務先では、この4月から、再編・統合・ 法人化・男女共学化が一気におしよせ、学 生も教職員も荒波の中で走りまわっています。いつもお送りいただきありがとうございます。

(松江市 小泉 凡) 私の住んでいる校区の中高年者を中心に結成した山歩きのグループ「深町山歩会」(会員33人)は、結成以来10年を過ぎました。毎月、北部九州や山口の山々に登り、下山後は温泉で汗を流す例会も120回に近づきました。最近は無名山が開拓されるなど、対象とする山やルートも広がっています。山頂で頬張るオニギリの美味しさ、眺める雄大な景色は、リフレッシュにぴったり。手軽な健康づくりに山歩きをされてみてはいかがでしょうか?

(北九州市 丸山野 美次) 今年から「ものづくり」の事業をスタート します。 やるからにはもうけないといか ん!!

(大野城市 尾崎 正利) 雲仙市雲仙地区のまちづくりは、2年間の 成果として、H19年度からは、市の予算で 動きはじめました。まずは、地獄から流れ 出る湯川の移設整備と川沿いの街並み整備 からはじまります。

(小郡市 大渡 剛弘) 今年2月にうきは市教育委員会を退職し、5 月より耳納クリーンステーション内再生工 房耳納ねっとの事務局長として働くことに なりました。耳納地域の環境問題への取り 組み、啓発、及びまちづくりに取り組むこ とになりました。また、「NPOみのう地 域循環デザインセンター」とも協力してい ろいろな展開を図っていく予定です。今後 ともよろしくお願いします。

(うきは市 小田 好一) 道の駅豊前おこしかけも開駅から8年目を迎えています。地域の食材を生かした「道の駅弁」づくりに努めてきた結果、18年分のお弁当の売上げは6,400万を超えました。これからも他所にはない地域ならではの特産品づくりに汗をかいて参ります。

(豊前市 白石 道雄) 佐賀城下ひなまつりのご紹介有り難うござ

います。作春 o p e n した吉島家の鍋島緞通いかがでしたか?今後とも佐賀市、佐賀県を宜しくお願いします。それと、本のご案内「自治体都市計画の最前線」勉強します。

(佐賀市 福田 勝法) 佐賀経済同友会がこの数年提唱していることが九州国立博物館と九州各地の文化施設のネットワーク化です。現在好調な九博がネットワークのハブとなり、九州各北の文化施設の紹介や時期限定の特別展などの交流を実施すべきという提唱です。このネットワーク化のための組織づくりは早急に推進すべきと考えておりますが、いかがでしょうか。

(小城市 村岡 安廣) 86号の少子化社会の分析、大変勉強になりました。現在伊万里の郊外(木須町)に道路開通に合わせた大型SCの計画がもちあがっています。三法改正施行直前のかけこみ申請・出店は、各地でも起こっているのでしょうか?

(伊万里市 M.A.)

「よかネット」楽しく拝見させていただいています。60才をこえ、両親をみるために主な拠点を長崎に移しました。それと同時に長崎で「高齢者支援サービス」(福祉でなくサービスです)を始めました。介護保険を使わないサービスです。目下勉強中です。また、報告させて頂きます。

(長崎市 池田 毅) 昨年より風土ビジネス係が新設され、地域 の風土、フードを活かした地域づくりを目 指し活動しています。

(大口市 橋本 欣也)

英彦山・修験道文化を田川の 地域づくりに活かそう

~ 第1回研究会の報告~

本田 正明

昨年度から田川地域の活性化を目的とした 長期戦略プランづくりを、福岡県立大学が中



お話をしていただいた長野覺先生 心となって考えているのだが、縁あって客員 研究員という形でお手伝いさせていただいて いる。

今年は具体的な活動を起こしていこうと、 英彦山・修験道の生活文化などを活かした新 しいサービスや商品開発を目指した研究会を 始めた。

第1回の研究会は、まず英彦山と修験道のことをもっとよく知ろうと、長年修験道の研究に携わっておられる長野覺先生を招いて「不老長寿に挑戦する修験者(山伏) - その修行・施薬・食文化の知恵」という話をしていただいた。以下はその主旨を簡単にまとめたものだが、私の勉強不足もあって不正確な部分もあるかもしれないがご容赦願いたい。

不老長寿の思想が影響している修験道

修験道は自然信仰などの原始的信仰と仏教 や神道などが習合した日本独自のものだが、 不老長寿を理想とする道教思想の影響も大き く、中国古代の神仙や仙人などが、修験者 (山伏)の原点ともいえるのだそうだ。修験 道の行場(修行道場)は全国各地にあるが、 後のからでは、後行道場)は全国各地にあるが、 後のからであるが、 そのの名称としてよく聞く「峰入り」も大峰 山からきている。

英彦山は大峰山、羽黒山と並んで日本の三 大修験道といわれ、最盛期には3800もの僧坊 (修験者の住居)があったそうだが、明治政 府の神仏分離令や修験道廃止令などによって、 修験者の多くが里に下ってしまった。銅の鳥 居より南に広がる田んぼは、そうしていなく



英彦山峰入りコース

資料:英彦山順峯四十六宿次第:英彦山修験 最秘印信口決集巻 増補改訂日本大蔵経 第95巻:鈴木学術財団



修験者秘伝の保存食



修験者が配っていた薬

なった僧坊の屋敷跡なのだそうだ。

信仰を集めるために重要な薬草知識

修験者の生活は、もちろん修行だけでは成り立たない。檀家廻りをして、加持祈祷や薬を配りながらお布施を得ていた。修験者の超能力に期待する人は多く、中でも病の治療の需要は多かったようだ。そのためか、修験者の中には動植物や鉱物の知識に長けた人も多かった。薬草などの知識が信仰にも密接につながっていたようである。

大峰山では陀羅尼助という胃腸薬や、 木曽御嶽には百草丸、伊勢朝熊山の萬金丹な どの薬が今でも残っているが、薬草知識など は秘伝であったため、ほとんど文書が残って おらず、原料や処方箋がわからないそうだ。

現代では嗜好品になっているお茶も昔は薬として重宝されていた。「3日間断食したときに、水やお湯を飲んでも満腹感があるだけですが、お茶を飲むと活力が出てくるんです」と先生がいっていたが、修行によって自分を追い込むと人間が失った本来の野生の力が戻るのか、感覚が鋭敏になるそうだ。

修行中の修験者の食事は1日2食でそのほとんどが粗食であり、根芹や山葵などを食べたという記録が残っている。羽黒山の修験者

から伝えられたという「六浄」という豆腐の 加工食品が現代にも残っているが、当時は蛋 白質を得るための貴重な保存食だった。

修験道の文化をどう地域づくりに活かすか 講話の後のディスカッションでは、修験道 の文化を地域づくりに活かすために、まず英 彦山を舞台にした歴史小説をつくれないだろ うかと意見が出たのだが、主役になりそうな 人物が浮かばない。

修験道自体にも頂点に人が立つという思想がないようで、開祖といわれる役小角でも山頂でなく、山の麓に祀られているそうだ。修験道は文章で記録をほとんど残していないので、分からないことも多いようである。

大峰山や羽黒山と比べても英彦山は受け継がれている修験道文化が少ないように感じたのだが、篠栗遍路の場所も、天保の頃までは、行場として使われていたそうで、実は修験道ともゆかりが深いようである。田川地域でもそうしたコースが組めるのではないだろうか、「修行の道だから歩くのは大変」という声もあったが、とにかく現地をみてみないことには始まらない。暑い夏が来る前に一度峰入りのコースを訪れてみたいと思っている。

(ほんだ まさあき)

近 況

糸島で田植えを体験しました。

九州大学大学院農学研究院の佐藤剛史先生の少人数ゼミの学生さんたちと一緒に、二丈町で田植えを体験してきました。今回の田植え体験は、佐藤先生の提案に対して、町や農家が協力して実現したものです。

私は、田植え体験ということなので、みんなで並んで手植えをしたりするのかなと思っていました。しかし実際は全然違って、機械が隅々まで植えるので人が田んぼに入ってもえることはほとんどなく、午前中はひたすら苗箱を洗うといっても手洗いではありません。専用の機械があって、今りまではありませんでいることに驚きましたが、それでもまだまだ手間のかかる作業がたくさんあることを知りました。

ところで、今回なぜ学生と一緒になって田 植え体験をしたかというと、今年から、糸島 地域と九大の連携による「まるごとキャンパ



ー辺が100mもある田んぼの畦道を歩く



苗箱を田植え機に運ぶ学生

ス(ネットワーク型農学校)」というプロジェクトが始まり、そのお手伝いをすることになったからです。このプロジェクトは、糸島地域をフィールドに、九大の先生や地元農家が講師となって、学生や都市圏住民に農や食に関する学びの場を提供しながら交流を深めるといったものです。

今後、地元の農家や九大の先生方といっしょにこのプロジェクトの具体化に向けて検討を進めていくことになりますが、地元と九大の関係がより深いものになればなと思います。 (雪丸 久徳)

食育祭に行ってきました

先日、食育推進ネットワーク福岡の主催による「食育祭inふくおか2007」に行ってきました。今年で3年目とのことです。会場では、新鮮野菜・安心食材の試食販売の他、親子料理教室やマクロビオティック・ライフ実践の講座、小学校や高校の先生による食育授業など様々なプログラムがありました。会場には乳幼児から小学生を連れた家族連れや学生など多くの人が来ていました。

様々な活動の展示コーナーで特に印象的だったのは、小学生が育てた野菜を直売所で販売するなどの取り組みをパネル展示された小学校の先生に、先生志望の学生と思われる女性2人が、授業の様子や子ども達の様子など熱心に聞いていたことでした。また、小学生から大学生まで自分で作ったお弁当を持参する「弁当の日」の取り組みのパネルでは、それぞれのお弁当の写真とともに苦労したコメントや皆で食べた感想が書かれていて、作って皆で食べることの楽しさが伝わってきました。

私は今年入社7年目ですが、振り返ると、 食のことを考えているからという理由だけで はありませんが、社内の昼食の風景も変わっ てきたなと思います。入社当時の昼食の風景 は皆一斉に外に食べに行くので誰が事務所に 残るかジャンケンで決めていました。しかし、 私や本田などが時々弁当を持参するようにな って(自作の割合は少ないですが)、昼のジャンケンの回数が減り、さらに宅配のお弁当 屋さんがビル内を回ってくるようになり、一 人二人と昼は事務所で弁当派が増えていき、 このジャンケンは自然消滅しました。

今年は事務所を中洲中島町に移して3年目になります。以前の事務所(天神1丁目)から目と鼻の先に移ったのですが、道路や川を越えたことで、天神地区への距離は実際よりも遠く感じるようになり、近くの食事処も以前に比べて少ないことから、さらに宅配弁当派が増え、外食派が少数になりました。

そしてここ1年。所員の結婚が相次ぎ、宅配弁当派から持参弁当派が増えました。時に、カレーを持参する者もいて、皆で囲むテーブ

ルはいろんなお弁当があります。

私の場合、毎日お弁当を持ってくるには、 家族の助けが大きいですが、昼食だけでなく 前日や朝の献立と買い物の段取りの慣れだな と実感しています。お弁当持っていくことに 力点を置くと夜も朝も何かしら作ることにな るからです。

食育祭では、砂糖や卵を使わない素材を活かしたお菓子も多く販売されていました。食事だけでなくそんなお菓子も楽しんでいきたいと思っています。

(愛甲 美帆)

ミュージカル天草四郎のご紹介

福岡市の博多座では、毎年12月は「市民檜舞台の日」ということで地域に関わる劇団等の上演が行われます。 今年は、よかネットパーティにも参加された秋田県の 劇団わらび座の「天草四郎 - 四つの夢物語 - 」が公演 されます。ぜひ足をお運びください。

日にち:2007年12月15日(土)

16日(日)

場所:博多座

お問い合わせ:わらび座九州事務所

TEL 092-674-4151



-編集後記-

記事の中でも書いているが、今年のパーティは、これまでのやり方から変えることを目的として準備した。建替で使い勝手が変わったこともだが、所員が参加者と交流できる時間がもっと欲しいというのが本音には勝てなくなってきたというのが本音には勝てなくなってきたというのが本別をしたものでも最もうまくいったと野でも最もうまくいったらび座の方と知り合ったおかげで「田沢湖ビール」も堪能できたので、今度はミュージルで協力をしなければ。

編集終了!海!山!ビール!?の季節到来ですが、暑さや水不足が心配です。(あ)

よかネット No.87 2007.7

(編集・発行)

㈱よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号 福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社) (株地域計画建築研究所

本社 京都事務所 大阪事務所 TEL 075-221-5132 TEL 06-6942-5732 TEL 042-501-2531

東京事務所 名古屋事務所

TEL 052-202-1411

㈱地域計画・名古屋